

「土木広報大賞 2018」応募用紙

団体名：(株) 藤井基礎設計事務所		
代表者氏名：藤井俊逸		所在地：島根県松江市東津田町 1349
担当者情報	氏名：藤井俊逸	所属部署：代表取締役社長
	電話：0852-23-6721	E-mail：shun@fujii-kiso.co.jp
土木広報活動または作品名：「ドボク模型」により土木をわかりやすく伝える広報活動		
<p>●広報活動または作品の概要</p> <p>「ドボク模型」を用い、土木をわかりやすく伝えることで、土木の理解増進を図る活動。</p> <p>「ドボク模型」とは、100円ショップやホームセンターで手に入る材料で、土木の中にある力学的な面白さを、単純化して伝えることを目的としたものである。藤井俊逸が中心となって作成している。</p> <p>●具体的な活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日経コンストラクション「ドボク模型プレゼン講座Ⅱ」（2017年3月～2018年7月）にて、12回「ドボク模型」を掲載した。土木関係者が地元説明会で「ドボク模型」を活用し、一般の人に土木に興味を持ってもらうことを目的の一つとしている（資料-1）。 ・土木学会や、各種協会で、土木を理解してもらうために活動している（資料-2）。 <ul style="list-style-type: none"> 事例1：地盤工学研究発表会の市民イベントで岡山の大学生が市民に土木を伝えた事例 事例2：アンカー協会が子ども霞が関見学デーで子ども達に説明した事例 事例3：建設コンサルタントフェア中部で中部地区のコンサルタントが市民へ説明した事例 事例4：施工業者が住民にトンネルを理解してもらうためコミュニティハウスに模型設置した事例 ・小学校や中学校で、「ドボク模型」を活用して、土木の理解増進活動を行っている（資料-3）。 <ul style="list-style-type: none"> 事例1：地元の小学校で土砂災害の発生原因とそれを防ぐ土木施設の説明をした事例 事例2：地元建設会社とトンネル現場で「ドボク模型」を利用して説明した事例 事例3：三重県の職員が現場見学会で「ドボク模型」を利用して説明した事例 ・土木関係者の教育のために「ドボク模型」を活用している。土木関係者自身に「土木の面白さ」を伝えると共に、土木関係者が一般の人に対して「土木理解増進活動」を行うように促すものである（資料-4）。 <ul style="list-style-type: none"> 事例1：土木未修学社員を対象に土木の面白さや土木理解促進を講習で伝えた事例 事例2：ゼネコンの新入社員教育で土木の面白さや土木理解促進を講習で伝えた事例 事例3：技術士会の会員向けに理科離れ防止に「ドボク模型」を活用した事例報告 事例4：土木専攻の学生が「ドボク模型」を通じて土木の理解を深めた事例 ・NHK_Eテレ「学ぼう BOSAI」の「土砂災害から命を守る」の中で、「ドボク模型」を活用し、一般の人に土砂災害の発生メカニズムを伝えることで、土木の重要性を伝えた（資料-5）。 ・少年写真新聞の「理科教育ニュース」で「模型で地すべりを再現する」ページを作成協力した。全国の学校に配布されるもので、この中で排水ボーリングなど、すべりを防ぐ工夫も紹介し土木理解増進に努めた（資料-6）。 		

広報活動の効果

- ・日経コンストラクションでは、2014年1月~2015年7月の間で「ドボク模型プレゼン講座Ⅰ」を行った。反響が高かったために「ドボク模型プレゼン講座Ⅱ」の掲載となった。これらの掲載により、工事業者が地元説明会で「ドボク模型」を活用したり、各種団体が一般の人に説明する機会が多くなってきている（資料-1、資料-2、資料-3）。
- ・土木学会斜面工学研究小委員会では、毎年東京都の防災展に参加している。このとき「ドボク模型」を用いて一般の方に土砂災害の発生理由とそれを防ぐ方法について説明している。昨年は防災展2018in世田谷にて230人の一般市民に「ドボク模型」を用いて土砂災害と災害を防ぐ仕組みについて説明した（資料-7）。
- ・土木学会関西支部が建設技術展近畿にて2009年から毎年「土木実験プレゼン大会」を開催されている。「ドボク模型」として毎年参加し、毎年参加者300人程度に土木を伝えている（資料-8）。
- ・2017年11月15日：鹿島東小学校での土砂災害の学習会にて土砂災害の発生原因とそれを防ぐ土木施設の話を行い土木の面白さを理解してもらった。そのときの先生・子供たちの感想文の一部を、資料-9に示す。「ドボク模型」が土木の理解増進に繋がることがわかる（資料-9）。

付属資料の提出

■あり・□なし（どちらかに印（■）を付けてください。）